

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年10月8日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670103045号		
法人名	医療法人 萩風会		
事業所名	グループホーム 谷山ゆめ		
所在地	鹿児島県 鹿児島市 下福元町 1719番地 3 (電 話) 099-260-8032		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年10月7日	評価確定日	平成21年10月24日

【情報提供票より】 (平成21年8月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年12月10日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤8人 非常勤9人	常勤換算14.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷 金	有 (円)		○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有 (50,000)	有りの場合 償却の有無	有 / ○無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要 (8 月 25 日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.7 歳	最低	75 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	萩原整形外科	大園歯科医院
---------	--------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは鹿児島市の郊外に位置し、緑豊かな自然環境に恵まれて落ち着いた佇まいの中にあり、開設当初より地域との交流が盛んで地域住民とのふれあいを大切にしている。管理者・職員は、家族との関係を大切にして、利用者一人ひとりが穏やかに安心して日々を送れるように連携を大切にしている。また、職員間の仲がよく、仕事に誇りと愛情を持ってサービスの向上に取り組んでいる。母体医療法人とは24時間医療連携体制があり、利用者・家族は安心して暮らしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	同業者との交流を通じた向上、食事を楽しむことのできる支援等は、管理者・職員が、改善シートを作成し具体的に取り組み、改善されている。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価を行い、見直しや改善点を話し合い、新しい気づきやケアの見直しを行い、評価を活用して具体的な改善点に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域の方々や家族の代表が参加して、定期的開催している。ホームの状況報告や取り組みを話したり、地域の行事の情報や意見をもらったりして、サービスの質向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月ホーム便りを発行して、利用者の様子を家族に報告している。近くに住んでいる家族が多く、面会に来られた折は、お茶を入れながら職員が話をしたり、意見を聞くようにしている。年2回家族会も開催し、出された意見は運営に反映している。
重点項目	④
重点項目	開設当初から町内会に加入し、昨年は班長として、地域活動にも積極的に参加している。毎月、踊りやお花・髪のカットボランティア訪問・地域の住民が野菜やおかずの差し入れや一緒に食事をするなど、地域の方々との交流が盛んである。中学・高校生の体験学習の受け入れ等も行いながら、地域の人々との交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に決めた理念があったが、住み慣れた地域の中で安心した生活が送れるように、理念の見直しを行ない、事業所として独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について、職員は常時話し合いを行ない、理念を共有し、目に付くところに貼っている。日々のケアの中で理念の実践に向けての取り組みがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設当初から町内会に加入し、昨年は班長として地域に参加した。踊りやお花・髪のカットボランティア訪問・地域の住民が野菜やおかずの差し入れや一緒に食事を食べるなど、地域の方々との交流がある。中学・高校生の体験学習を受け入れるなど地域との交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価を行い、改善シートを作成して話し合いを行った。評価を活用して、新しい気づきやケアの見直しを行い、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、町内会長・民生委員・家族の代表・地域包括支援センターの職員等が参加している。ホームの状況報告や地域行事・防災訓練・講習会参加への要望など、意見を聞きサービスの向上に活かしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の受け入れや地域包括支援センターとの交流を行っている。管理者は、市のグループホーム協議会に加入している。谷山グループホーム関係者の勉強会を計画している。また市町村と連携を取りながら、サービスの質向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「ゆめ便り」を発行し、家族へ利用者の様子を報告している。近隣に住む家族が多く面会が多い。面会や訪問時には、金銭管理の確認をしたり、職員の異動についても報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、お茶を入れながら管理者・職員が家族と話をしている。また、年2回家族会を行ない、出された意見や要望等は、職員で話し合っって運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を大切にしているので、異動は最小限に抑えている。新しい職員には、慣れるまでベテランの職員と一緒にケアにあたり、利用者へのダメージを防ぐ配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者自ら向上意欲があり、職員は交代で研修会等に参加し、職員会議で研修報告を行い共有している。谷山地区の勉強会にも積極的に参加している。資格取得にも支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流・連携を図り、谷山地域の勉強会を設立している。事例報告会やネットワーク作りを行ない地域の祭りにも参加している。職員間の交流を通じてサービスの質向上への取り組みを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者には本人・家族と相談しながら、思いや不安を十分に聞きサービスを開始している。母体医療機関・デイケアの利用者や地域の顔馴染みの方なので、サービス利用の開始もスムーズに行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で親子の関係になったり、季節の行事のしきたりや慣習を教わりながら、利用者から学び、共に支えあう関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族とお茶を飲みながら対話する中で、思いや意向が引き出せる雰囲気作りをしている。また、利用者同士の会話の中から、本人の意向が見えてくることもある。困難な場合は職員で検討して本人本位に行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々のかかわりの中で、本人や家族の意見を聞き、職員会議で話し合いや意見交換を行ない、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月に1回モニタリングを行い評価の見直しをしている。退院後や状態変化に応じてケアの現状に即した介護計画の見直しを行いケアにあたっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	墓参りや自宅訪問・病院受診など、事業所の多機能性を活かした支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を支援している。母体医療機関では24時間体制で対応し、緊急時は往診の体制が取れている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期については、本人・家族の意向を聞きながら話し合いを行っている。重度化の対応・看取りについても同意書を作成し、その都度説明を行い、全職員で話し合いながら方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々のケアの中で、さりげない声かけや対応ができるように勉強会を行い、職員の意識の向上を図っている。個人情報についても常に話し合いを行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の決まりごとではなく、朝食・入浴・就寝等について、自由に利用者ひとり一人のペースに合わせて見守り、ケアの取り組みを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞きながら、買い物と一緒に出かけたり・庭の菜園の野菜を収穫したり・旬の食材を使って食事を職員と一緒に作っている。職員と利用者は同じテーブルで楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者ひとり一人の希望やタイミングに応じて入浴している。庭園をながめながらゆっくりと入浴を楽しめるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや洗濯物干し・食事の準備など、利用者の生活歴を生かした役割や干し大根作り・干し柿・そば打ちなど、楽しみごとへの支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車イス等での買い物・散歩・戸外でのおでかけなど、日常的に外出の支援を行なっている。月に1～2回外泊する方もいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関の鍵をかけずに職員の見守りと連携プレーを徹底し、自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、年2回避難経路や消火器の使い方等を利用者と共に行っている。地域の方々との連携も取れている。水や非常食などの備蓄の準備もしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量をチェック表で記録し、利用者の状態に応じた支援を行っている。定期的に栄養士のアドバイスももらいながら、栄養バランスのチェックを行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	スロープのある玄関には、手作りの表札があり、居間の畳の部屋には、利用者の書いた書画が飾られ、仏壇も置いてある。さりげなく洗面台のところに季節の花が活けてあり、風呂場の窓の外には庭が作られていて圧迫感がないよう工夫し居心地よい共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室畳を使用している。自宅で使っていたダンスや鏡台・人形・花・花鉢・日めくりカレンダー・位牌・写真等、本人や家族と相談しながら、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。